

# 海外食料需給レポート

## (2019年8月)

令和元年8月30日

農林水産省

# 目 次

## 概要編

I	2019年8月の主な動き	1
II	2019年8月の穀物等の国際価格の動向	2
II	2019/20年度の穀物需給（予測）のポイント	2
III	2019/20年度の油糧種子需給（予測）のポイント	2
V	今月の注目情報	
	最近の世界の気温上昇と穀物生産への影響	3

### (資料)

1	穀物等の国際価格の動向	7
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	8
3	平成31年2月以降の食品小売価格の動向	9

## 品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
2	とうもろこし	7
3	米	11
II	油糧種子	
	大豆	15

### 【利用上の注意】

## (概要編)

## I 2019年8月の主な動き

### 1 順調に受粉期を迎えた米国のとうもろこし

米国のとうもろこしは、3月以降の降雨過多の影響で作付、生育が遅れていた。7月以降、天候に恵まれ生育が進展し、7月下旬から8月上旬にかけて良好な天候で受粉期を迎えた。8月の米国農務省 (USDA) のレポートにおいても、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正された。その結果、生産量は前年度 (366.3 百万トン) を下回るものの、前月予測から 0.6 百万トン上方修正され、352.4 百万トンの見通し。

写真 米国中西部イリノイ州のとうもろこし

7月から乾燥となり生育は平年並み(8月10日撮影)



### 2 中国の米国産農産物輸入の一時停止

米中通商協議が進展しない中、8月1日のトランプ大統領の発言（「9月1日から3000億ドル相当の中国産品に10%の追加関税を賦課する」）を受け、8月6日には、中国商務部が、国営企業に対して、米国産農産物の購入の一時停止を要請したと公表。

さらに、中国財政部が8月23日に、2018年7月から米国産農産物の輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年9月1日以降の大豆(5%)、同年12月15日以降のとうもろこし(10%)等への追加課税について公表した。その影響について注視する必要がある。

### 3 タイの乾燥と米生産への影響

タイの北東部では、前年の秋以降、降雨が少なく乾季米が減産となったが、本年5月以降の雨季米の作付期になっても乾燥天候が継続し、作付けに支障が生じた。

タイの政府機関によれば、8月1日時点で米の被害は約75億バーツ（約2.5億ドル）の見通し。なお、7月後半から8月中旬にかけての降雨により一部改善されたとみられる。

今後作付けされる2019/20年度の米の生産量見通しは、米国農務省の8月需給報告によれば、7月の降雨不足による貯水池の水量不足から前月より0.4百万トン下方修正され、20.5百万トンの見込み。

しかし、2019/20年度のタイの生産量の下方修正に伴う世界全体の米の輸出量への影響は、インドや中国の輸出の増加等から限定的とみられている。

また、メコン川の水量も低下しており、隣国のカンボジアでも干ばつの影響が出ている模様。

写真 タイ北部のspan>プリー県の水田

降雨不足で作付が出来ず。(7月27日撮影)



## II 2019年8月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、7月下旬、170ドル/トン台後半で推移。8月上旬、とうもろこしの価格上昇につれ180ドル/トン台前半に値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の期末在庫量が上方修正されたことや、とうもろこし価格の下落等から、170ドル/トン台前半に大幅に値を下げた。その後も米国产の輸出低迷等から、8月下旬現在、170ドル/トン前後で推移。

とうもろこしは、7月下旬、160ドル/トン台後半で推移。その後、米中通商摩擦が不透明なこと、米国農務省需給報告で米国の作付面積が市場予想を上回ったこと、米国の良好な天候予測から、8月下旬現在、140ドル/トン台前半で推移。

米は、7月下旬、420ドル/トン台後半で推移。タイ産米価格は、長期的な降雨不足による干ばつ懸念とパーツ高の影響で値を上げ、8月下旬現在、440ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、7月下旬、320ドル/トン台半ばで推移。8月上旬、米中通商摩擦が不透明なことから、一時310ドル/トン台前半に値を下げたものの、米国中西部の乾燥天候懸念から、320ドル/トン台前半に値を上げた。その後、米国の良好な天候予測やとうもろこしの価格の下落につれ値を下げ、8月下旬現在、310ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

## III 2019/20年度の穀物需給(予測)のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月からほとんど変更なく 26.6億トン。消費量は、前月より 1.9百万トン 下方修正され 26.7億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率 は前月から 0.4ポイント 上方修正され 29.8% となる見込み(資料2参照)。

(注：数値は8月の米国農務省需給報告による)

生産量は、前月と比較して、小麦が下方修正も、とうもろこし、米で上方修正。穀物全体ではほとんど変更なく 26.6億トン の見込み。

消費量は、前月と比較して、小麦、とうもろこし、米で下方修正。穀物全体では下方修正され 26.7億トン の見込み。

貿易量は、小麦、とうもろこし、米で下方修正され、4.3億トン の見込み。

期末在庫量は、8.0億トン と前月より上方修正され、期末在庫率は前月に比べ上方修正。

## IV 2019/20年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の 生産量 は前月から下方修正され 5.81億トン。消費量は前月から下方修正され 5.94億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率 は前月から下方修正され、20.0% となる見込み。

(注：数値は8月の米国農務省需給報告による)